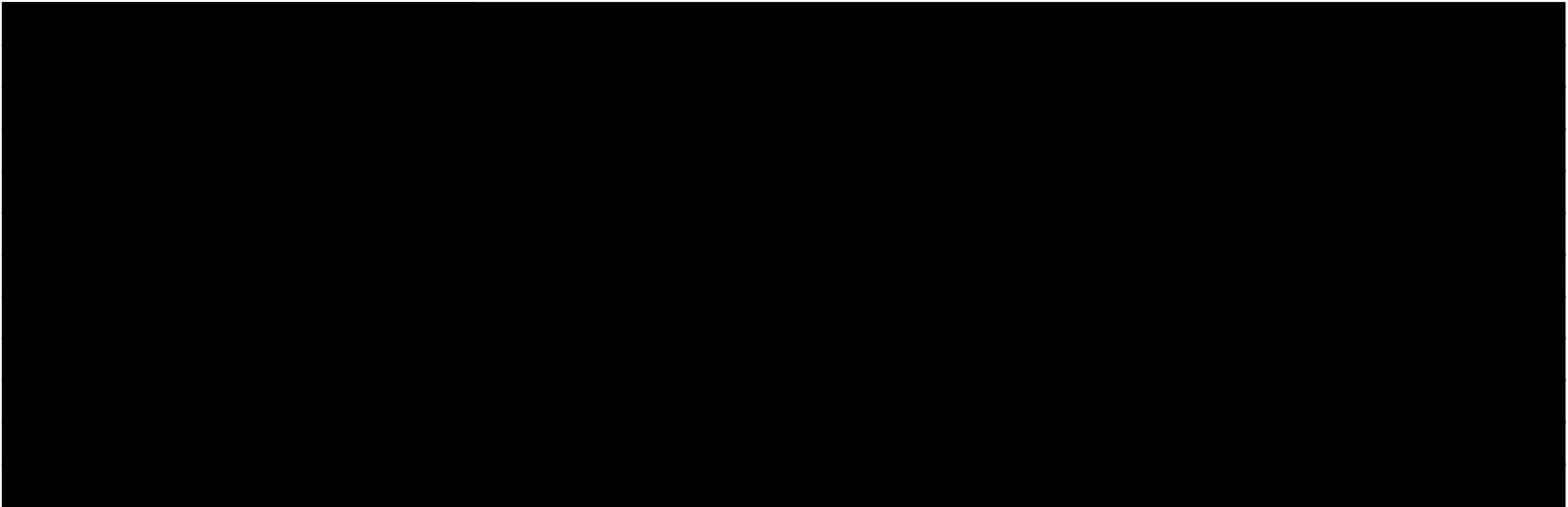
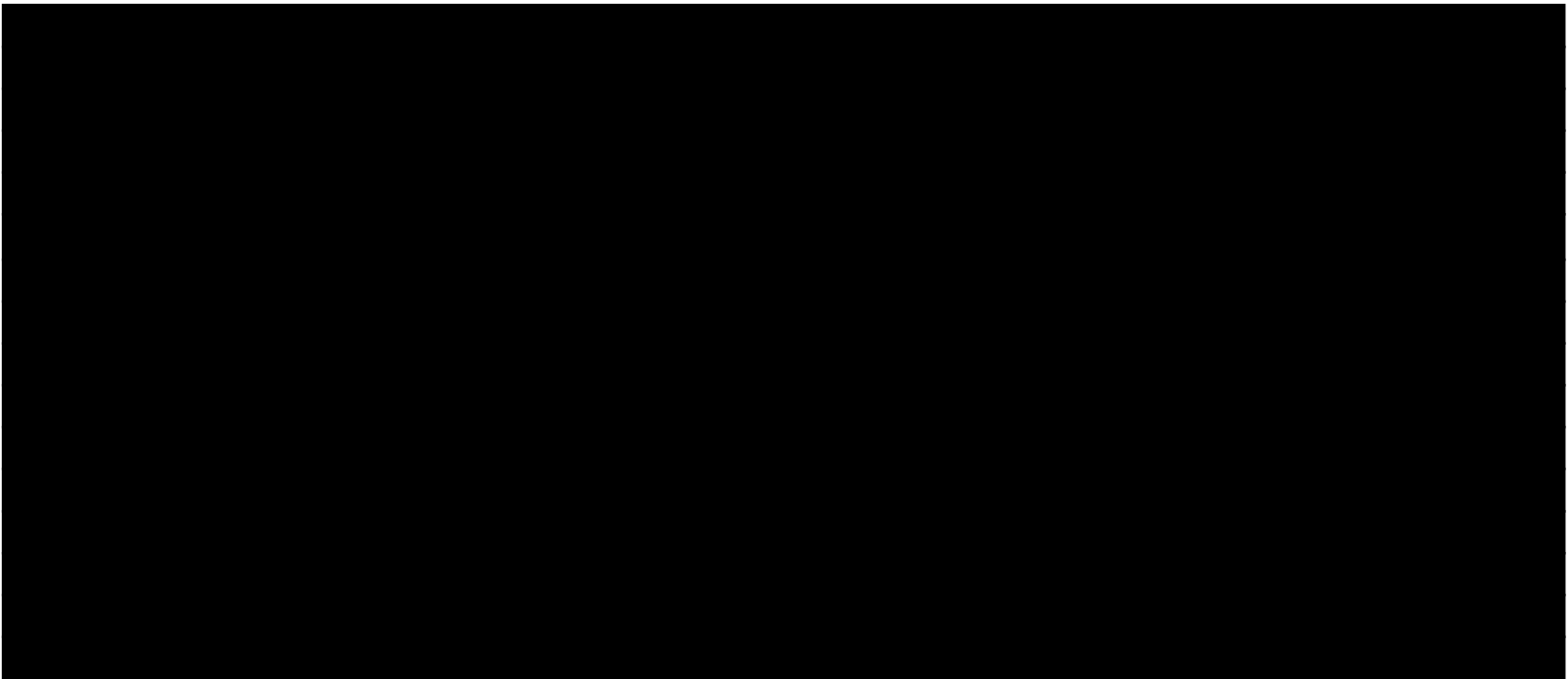


2 0 2 6 年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅲ期）問題

研 究 科 名	科 目 名
文学研究科 社会学専攻	英 語 (No.1)

以下Ⅰ・Ⅱの問題に解答しなさい。

Ⅰ．次の文章を和訳しなさい。

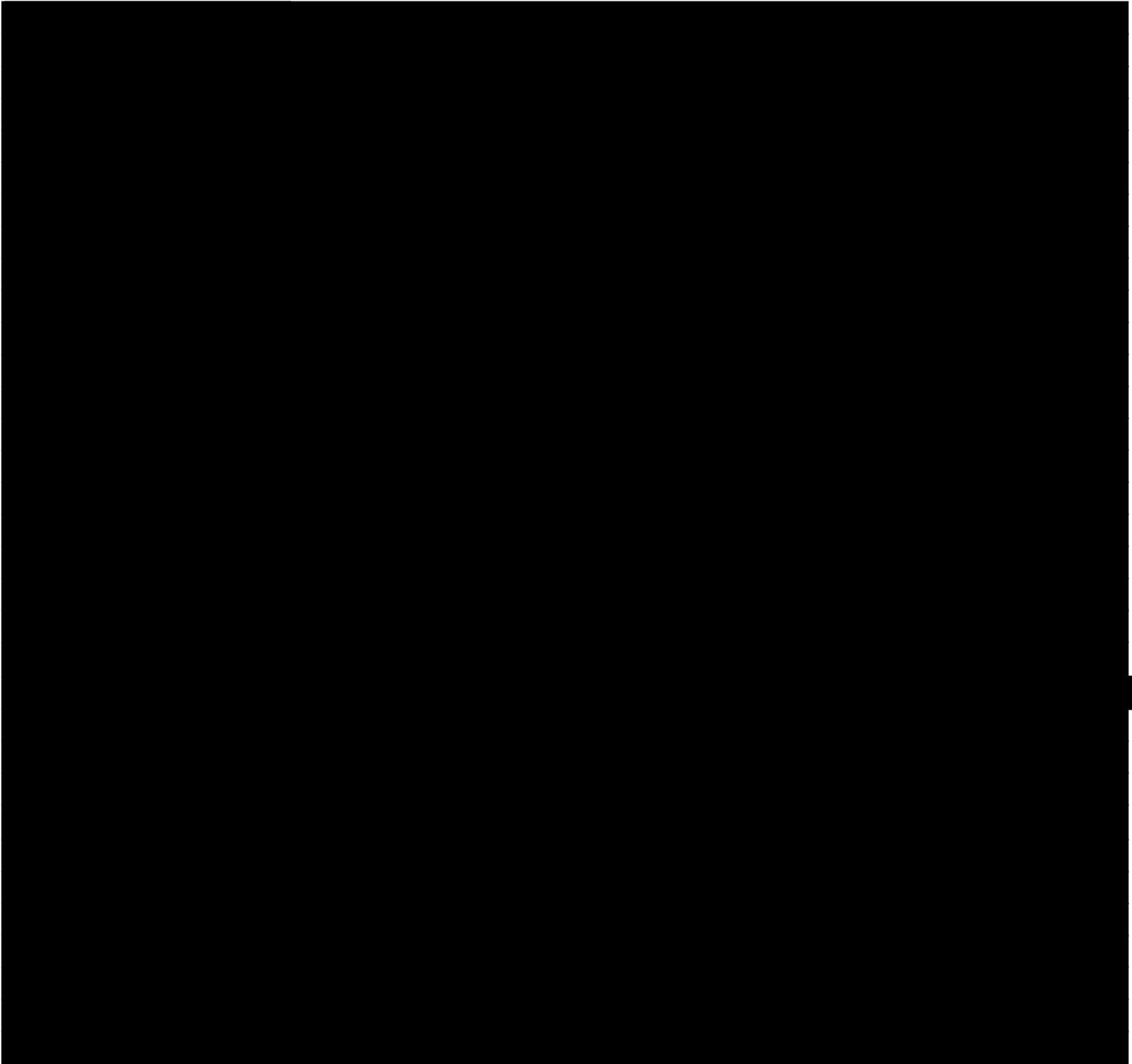


Source: Giddens, Anthony, and Philip W. Sutton, 2017, *Essential Concepts in Sociology*, 3rd edition, Polity(Kindle edition), pp.219-221. “Nation State”

2026年度大学院博士前期課程一般入学試験（第Ⅲ期）問題

研 究 科 名	科 目 名
文学研究科 社会学専攻	英 語 (No.2)

Ⅱ. 次の文章を和訳しなさい。



Source: Giddens, Anthony, and Philip W. Sutton, 2017, *Essential Concepts in Sociology*, 3rd edition, Polity(Kindle edition), pp.71-73. “Urbanism”

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline:

I

概念の起源

現代世界において、国民国家はごく普通の、さらには自然な政治的・文化的実体であるように見える。しかし、あらゆる社会現象と同様に、国民国家にも、その成立と発展をたどることができる歴史がある。多くの研究者は、近代的な国民国家が比較的新しいものであり、その成立は17世紀後半から18世紀にさかのぼるという点で一致している。15世紀から18世紀にかけてのヨーロッパでは、絶対君主制国家や立憲君主制国家が支配的であった。これらの国家は、多数の小規模な政治単位を吸収することによって、数は少ないものの、はるかに強力な国家を形成し、互いに併存しながら、権力をめぐる競争的な争いを繰り返していた。

.....

しかし、より効果的な統治・行政制度を必要とさせたのは、産業化がもたらした諸要請であった。また、社会を成り立たせる基盤が、もはや地域の村落や都市ではなく、より大規模な単位となったため、「公用語」に基づく大衆教育と計画的な教育制度が、大規模社会を組織し、その統一性を維持するための主要な手段となった。国民国家が支配的な形態となったのは、国民国家が正当な徴税と暴力行使の手段を独占するようになり、それによって強大な軍事力と、大規模な人口集団からの忠誠の双方を獲得したためだと考えられている。

意味と解釈

ネイション（国民）、国民国家、ナショナリズム、国民的アイデンティティからなる一連の概念は、社会学において、その意味をめぐる論争が最も多く、明確に規定することが最も困難な概念群の一つである。しかし、一見すると、これらの概念はきわめて単純に思われるかもしれない。たとえば、ネイションとは大規模な共同体であり、国家とは、その共同体の安全を保障する政治的形態である。もっとも、ネイションは、共通の言語、歴史、伝統をもつ均質な文化から必ずしも構成されているわけではない。

.....

ベネディクト・アンダーソン（2006）は、ネイションとは、具体的な「もの」というよりも「想像の共同体」とであると論じている。そこでは、多様な集団が、自分たちが帰属していると感じる文化的共同体とは何かについての認識、あるいは想像によって結びつけられている。しかし、ネイションが「想像された」ものであるからといって、それが現実性をもたないということにはならない。多くの人々が、自ら認識した国民共同体を基礎として行動するとき、人々を結びつける、共有された国民的アイデンティティが形成されるのである。

II

概念の起源

都市とは、人間の大規模な居住形態であり、周辺地域や小規模な集落との関係において、しばしば権力の中心となる。都市と認められるような居住形態の存在は古代にまでさかのぼることができる。しかし、都市と都市生活が固有の性格や生活様式をもつという考えは、19世紀後半にまでさかのぼる社会学的命題である。当時、都市化の進行は、人口の急速な増加と人口密度の上昇をもたらしていた。多くの人々にとって、これは文明が新たな段階に入ったことを示すものに思われた。フェルディナンド・テンニエス（[1887] 2001）とゲオルク・ジンメル（[1903] 2005）は、それ以前の居住形態との対比を検討し、人々が新たな環境のなかで生き延びるために、新しい心理的・社会的戦略を発達させていったことを明らかにした。しかし、都市研究が本格的に確立したのは、1920年代から1930年代にかけてのシカゴ学派の研究によってであった。

.....

意味と解釈

フェルディナンド・テンニエスは、都市研究の重要な先駆者であった。1880年代、彼は、緊密で長期

にわたって持続するゲマインシャフト（共同社会）の伝統的な社会的絆が、より緩やかで一時的なゲゼルシャフト（利益社会）、すなわち単なる結合関係へと移行しつつあることを指摘した。

.....

もう一人の先駆者であるゲオルク・ジンメルは、人々が都市にどのように対処しているのかに着目し、都市生活に固有の経験と性質を捉えようとした。ジンメルによれば、都市生活者は「倦怠的な態度」を身につけることによって、都市環境に適応する。これは、「何もかもすでに見慣れている」という心性であり、都市生活が人間の感覚に及ぼす消耗的な作用を鈍らせ、打ち消すものである。このような対処の仕組みがなければ、都市環境は耐えがたいものとなるだろう。

.....

シカゴ学派は、社会学における都市研究を構築するための基礎的な道具立てを提供した。その研究者たちは「都市生態学」と呼ばれる視点を発展させ、都市の内部が社会的に分化していく過程を分析した。

.....

近年の都市研究では、都市環境における空間の絶え間ない再編が検討されている。企業が拠点を移し、投資家が土地や不動産を買い集め、政府や地方自治体が雇用の創出を促進する一方で、緑地の保全も図ろうとすることによって、都市空間は再編され続けている。資本主義企業が競争上の優位を得るために活動拠点を移動させるため、都市空間の再編は継続的な過程となる。そして現在、この過程はグローバルな規模で展開されるものとなっている。

付記：

本訳例は標準的な一例であり、語句の選択や文体において他の適切な訳も評価対象となる。

出題意図：

purpose of Questions：

本問題は、社会学および文化理論に関する学術的英文を正確に読解し、その内容を適切な日本語で表現する能力を評価することを目的とする。